

30 患者構成の指標

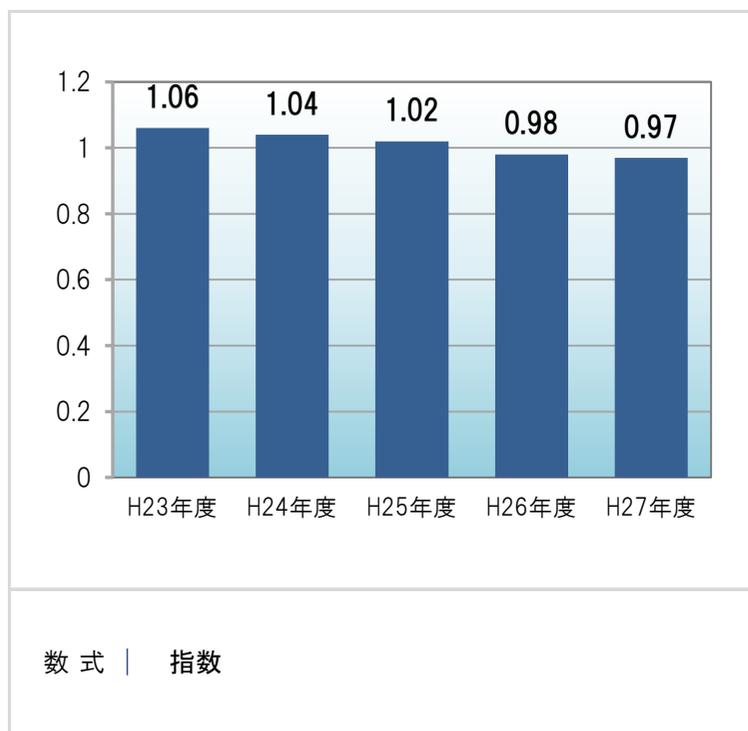
● 項目の解説

各病院の患者構成を視点とし、複雑な患者（診断群分類点数表の入院期間Ⅱの長い患者）をより多く診療していることを評価しています。

DPC の入院期間Ⅱはほぼ全国平均の在院日数ですが、入院期間Ⅱが長いほど、退院までに日数を要し、一般には治療の難しい状態の患者と考えられます。脳腫瘍や頭頸部腫瘍の化学療法、出生体重1、500g以下の新生児等がそれらに該当します。

いわば、「複雑性の指標」ということができますが、数値は1.0 が全国平均であり、大きい方がより難しい状態の患者を多く見ていることを示しています。指標29の在院日数の指標も同時に考慮する必要があります。

● 当院の実績



単 位 | —

期 間 | 6 か月

備考・コメント

平成27年度国立大学病院平均値 1.069

● 定 義

厚生労働省のDPC 評価分科会の公開データです。（DPC 毎の在院日数を、平成27年度全国平均に合わせた際の医療機関別の在院日数を、平成27年度全調査対象医療機関の全体の在院日数の平均値（12.67日）で除した値）

参考：<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000150723.html>